



公民館だより今号から、きり絵で描く日野の風景を紹介していきます。

これは中央公民館の「きり絵教室」の修了者が自主サークルを結成し、四季折々の日野の30景をきり絵に表現したものであります。

第1回目は開業120周年を迎えたJR日野駅です。この駅舎は昭和12年6月に竣工し、当時の面影を未だに残す民家風の木造建築です。近代的な駅舎がほとんどの昨今、郷愁を誘うと共に日野宿にマッチし、乗降客には親しみのある駅舎として愛されています。

なお、紹介するきり絵は絵はがき版になって販売もされています。10枚1組で3セット、1セット500円です。ご覧になりたい方、お求めになりたい方は、中央公民館へおいでください。



土曜日の午前中、公民館の一室は「日野ステンドグラスの会」の工房に変容します。公民館の講座を出発点にサークルとなつて17年。今は先生を離れて、13名の会員同士で上達を目指すサークルです。

机上に拝げられた新聞紙の上に、緑、赤、銀など色とりどりのガラスの切片がパズルのように並べられ、Hさんは教材用にXマスクのモミの木のキットを制作中でした。

制作には、先ず下絵を描いて、色を考えながらジグソーパズルのように切り離し、型紙を作ります。型紙をガラスに貼つて色ガラスの切片を作り、再び組み合わせるのです。

初心者は平面的な皿などからはじめ、近頃ではランプシェードが主流とのことです。作品は、エードが

「長続きすることが大切」とHさん。見た目の華麗さに比べて、厚みのある色ガラス板をガラス切りで切り、電動のルーターで形を整え、更にヤスリで縁を磨く。ハンド付けのために、一片ずつテープでくるむ等々、その工程は十数つもある地味な手仕事です。

会員の皆さんには「それ故に一週一度、集まることが大変なのです」と口々に話されました。

アイデアを出し合つたりコツを教えてもらいに来ることも。自慢し合う場所も

サークルの仲間たち

公民館で活動しているサークルを紹介します

◆光が入るとさらに色鮮やかなランプシェードの数々

「光を通した時が一番美しいと見えます」と、会員の方々が並べて下さった卓上ランプは、古典的にしてモダンとでもいうのでしょうか、ガレ工房の手仕事を思いました。



等の理由で、外部への発信には消極的です。けれども一度、小学生向けに公民館で体験教室を開いた時は好評でした。

皆さん、ステンドグラスに関する本を求めて図書館や書店に出掛け、展覧会を訪ね歩く。また街の工房へ行くと、各人各自勉強熱心です。

関心をお持ちの方は、いづらでも先輩会員が手ほどきします。歓迎します。

展示やバザーは、運搬が簡単ではない、作つたものは愛着があつて手離せない

必要ですか。手も口もよく動いて楽しい皆さんです。

展示やバザーは、運搬が簡単ではない、作つたものは愛着があつて手離せない

3 市境界線の交わるところ

32

3 市境界線の交わるところ

3 市境界線の交わるところ

32

3 市境界線の交わるところ